

メタルドゥ・2nd 物流センター

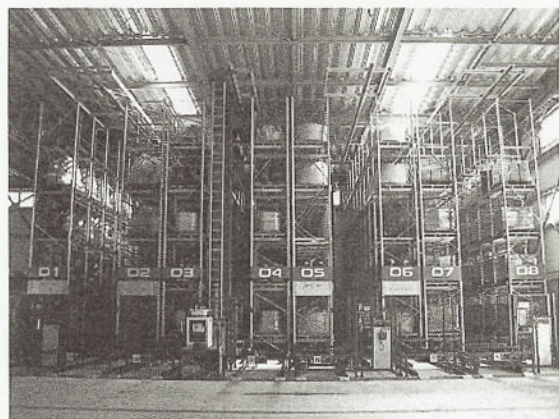
特金スクラップの大手商社、メタルドゥ（本社＝大阪市西区、藤田國廣社長）は先月、神戸ポートアイランドに第2のヤード「2nd 物流センター」を開設し、業務を開始した。収容能力2000トンは特金スクラップ専門で国内最大級。スクラップヤードでは珍しい大型自動倉庫を導入し、将来の市況回復に備える。このほど現地を取材した。

同社はニッケル系 アイランドの先端医療センター前駅から徒歩8分。六甲の山間部を背にした神戸港を望むことができた。これまでは2003年設立の「1st 物流センター」（大阪市此花区）を主力ヤードとしていたが、扱い量増加に伴い、計画された第2の拠点である。

「2nd 物流センター」（神戸市中央区港島南町3-5-1）は、神戸ポート



タッカークレーン4台がレインの間を通る。1パレット当たりの積載可能重量は1.5トで、収容能力は約600ト。天井までの空間をできるだけ有効利用でき



高さ10mの自動倉庫

先月 開設 大型自動倉庫を導入

投資総額は23億円。おおよその内訳は土地12億円、建物7億円、設備4億円が建つ。将来の増棟も見据えて設計されているため、敷地内は随分ゆとりがある。現在の人員は

投資総額は23億円。おおよその内訳は土地12億円、建物7億円、設備4億円が建つ。将来の増棟も見据えて設計されているため、敷地内は随分ゆとりがある。現在の人員は

バック詰めの原料も、安全に棚上へ収納できる。コンピュータパネル操作で自由に出入れができて、取り出した荷物は横付けしたトラックにフォークリフト

で即時出荷が可能だ。工場内の置き場は大きく分けて8区画。そのうち1区画は自動倉庫を設置している。なお、この自動倉庫の通路の向

かい側には、同規模の自動倉庫の設置を計画しており、電気工事と基礎工事はすでに済ませているという。

そのほかの設備は、2・8トクレーン3台、50トトラックスケール、放射能感知ゲート、蛍光X線分析装置など。自社専用のトラックも1台新たに購入した。さらに環境に配慮して約2000万円を投じ、屋上太陽電池パネルを敷設。街灯や自家消費の電気に充てる。荷降ろしヤードでは、プラスマ裁断による加工も行っているが、全社員に業務

「2nd 物流センター」を合わせ、将来の取り扱い目標は月間4200ト。ステンレス需要の落ち込みと金融危機以降の相場急落、マーケットの収縮に見舞われて、非常に厳しい船出となっているが、徐々に盛り返して地歩を固めていきたいところだ。

(桐山 太志)